

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会
社会水文学小委員会
(第25期・第6回)

議 事 要 旨

1. 日 時 令和4年8月30日(火) 10:30~12:30

2. 会 場 遠隔会議

3. 議 題

(1) 前回議事録の確認

(2) 吉田委員からの研究報告

- 日本の治水の経緯と課題を踏まえて、土地利用、伝統知・地域知に関する報告があった。
- 伝統知の定量的な機能評価はある程度進んでおり、それを支えるコミュニティなども協議会を設置するなどして学際的にアプローチしている。伝統知の重要性は地域では理解されている場合があり、それを科学的な根拠とともに後押しすることが可能である。
- 生態学・伝統知研究の島を含めた多様な風土のバリエーションをどのように捉えるのか？島は外部との繋がりも含めて様々な社会・自然的な違いがあることの認識が前提となる必要である。
- 社会水文学における地域知・伝統知の位置付けについて検討が必要である。国ごとに地域知・伝統知の定義は異なるのではないか。shifting the baseline syndrome の見方もある。リスクや価値に感覚は国や地域によって異なることも重要な論点である。

(3) 高橋委員からの研究報告

- 「生物文化多様性」や実際の活動事例についてご紹介いただいたあと、日本・アジアらしい社会水文学を展開するために Cultural socio-hydrology (文化多様性の継承から、環境のケアへ) の必要性について提言があった。
- 「生物文化多様性」は人間と自然を二分するこれまでの体系とは異なるように見える。学際的に体系化していく必要がある学問である。
- そのものの「水文学」の定義や学問体型を委員会として共有していく必要がある。
- 伝統知・在来知における人々の記憶の扱いが重要である。
- Narrative は方法論なのか？現象そのものが語られる場、あるいは語る行為として扱っている。しかし、分野によって異なる場合がある。
- 島における外部からの影響は、移動にとまなう海外からの影響や導水や行政体制といった地域変化によるものがあり、現在まさに課題が顕在化してきている。

(4) その他

- フェーズ2における委員会の進め方について確認を行なった。

4. 配布資料

なし